

経営比較分析表（平成28年度決算）

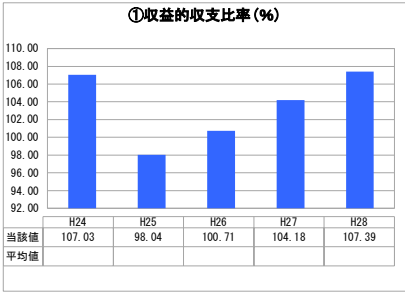
福島県 平田村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	31.99	100.00	4,320

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
6,411	93.42	68.63
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,034	2.17	937.33

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



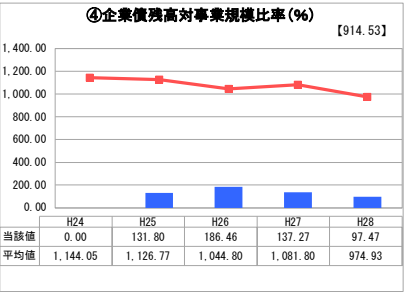
「単年度の収支」



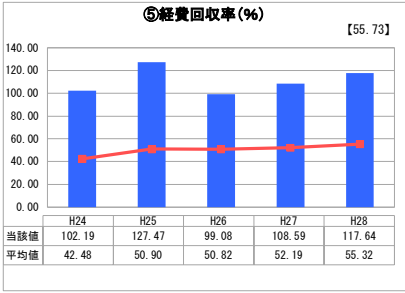
「累積欠損」



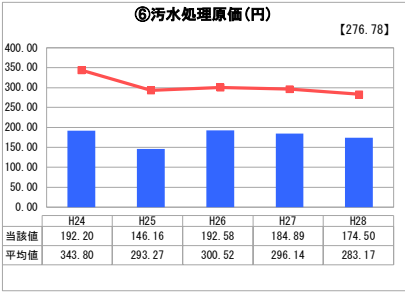
「支払能力」



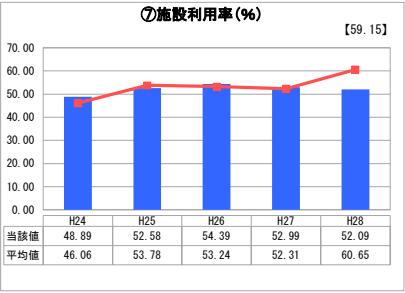
「債務残高」



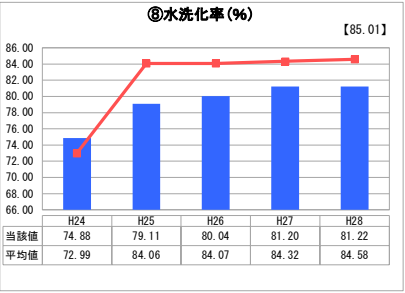
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

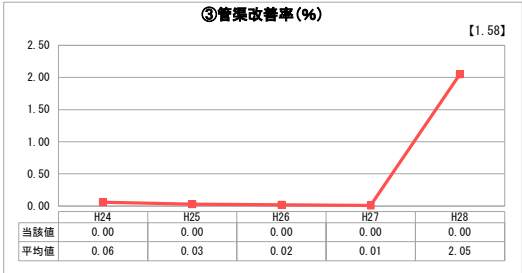
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 収益的収支比率について、100%を上回り、前年度よりも3.21%増となっているが、一般会計繰入金に依存する状況が続いており、料金改定を検討するなど、料金収入での財源の確保に取り組む必要がある。
- 企業債残高対事業規模比率について、前年度に比べて39.8%減少している。また、一部施設は供用開始後19年を経過しており、今後施設の機能診断と施設の強化を進めていく必要があり、そのためには財政的に多額の支出が見込まれる。
- 経費回収率について、前年度よりも料金収入が9.05%増額しており適正に賄えていると考えられる。しかし、今後の更新投資を考えると、更なる財源確保が必要とされる。
- 汚水処理原価について、10.39円の減となり、類似団体平均値と比べても金額が低いため、効率的な汚水処理が実施されていると考えられる。更なる有収水量増加のために、接続区域全域で接続率90%を目標としている。
- 施設利用率について、人口の減少、処理数量の減少から、施設利用率は低下しているが、今後未加入世帯の接続を考えると適正と思われる。
- 水洗化率について、年々増加傾向にはあるが、類似団体と比べて低いため、接続率を上げるために加入促進活動を強化していく必要がある。

2. 老朽化の状況について

- 管渠改善率について、現在は管渠の更新をしていないが、供用開始後19年を経過する施設もあるため、計画的な更新の検討が必要とされる。

全体総括

- 財源が一般会計の繰入金に依存する傾向にあるため、使用料収入からの財源確保と、全接続区域において、接続率90%以上につなげるための、加入促進活動を強化していく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。